

鹿屋における〈水の記憶〉を未来に 水資源との豊かな共生を目指して

難波美芸（グローバルセンター）・川西基博（教育学部）・伴野文亮（「鹿児島県の近現代」教育研究センター）
鹿児島大学法文学部附属「鹿児島県の近現代」教育研究センター令和6年度地域マネジメント教育研究プロジェクト成果報告会（2025年5月24日@鹿児島大学）

笠野原の水の歴史を記録し継ぐ 地域資料の保全と学生の学び

○笠野原開発資料館所蔵資料のアーカイブ化

- ＊ 古文書99点を中性紙封筒に入れ、処置を完了。
- ＊ 大正～昭和時代に作成された諸資料の存在を把握：
「大正式年旧十二月三日 資本金計算帳」、「昭和五年七月吉日 各年小作料要項」など。
- ＊ 一部の資料をデジタルカメラで撮影しデータ化。
- ➔ 今後は、**全資料をデジタル化**し、研究教育資源として活用する方法の検討が課題。

○地域住民のライフストーリー調査

- ＊ 笠野原開発資料館を管理・運営する安藤一夫さんとツル子さんご夫妻のオーラルヒストリーを採録。
- ＊ 笠野原地域の歴史文化と、幼少期の戦争体験に関する〈語り〉をアーカイブ：戦前～戦中にかけての笠野原地域での暮らしや、畑地かんがい反対運動の内実など。



○学生関与とその教育的意義

- ＊ 古文書保存処理とライフストーリー調査には学生が事前学習・質問設計・実践を通して関与。
- ＊ 地域史と向き合う意義や魅力とその方法を主体的に学修。
- ＊ 学生たちによる成果報告会での発表と市民からのフィードバック。
- ➔ 学生は、「自分たちが笠野原の地域課題を解決するためにできることは何か」という「問い」をもとに各実践に臨み、探究の成果を地域に還元する営みを経験。
- ❖ **地域の歴史文化を未来に継承する意義と技法を能動的に把握。**
- ❖ **地域の歴史文化を未来に継承する担い手としての自覚を能動的に形成。**

肝属川流域の水辺植生と地域環境教育の可能性

○市街地を流れる肝属川中流域

広範囲に水草群落が広がり、生物多様性と河川環境保全の観点から注目。

- ＊ 在来種：ホザキノフサモ、ヤナギモなど
- ＊ 外来種：オオカナダモ、ボタンウキクサなど
- ➔ 浅い水深、適度な流れの強さ、市民による水草の除去活動の効果などが生育に影響。



鹿屋市街地の肝属川では水草群落が河床を覆う



下高隈の棚田



ホザキノフサモとヤナギモ



水田雑草のホシクサ



池の水面を覆いつくす特定外来生物のボタンウキクサ



外来種のオムナグサ。鹿児島本土ではまだ記録がない。

○水辺の植物を用いた教育の検討

- ＊ 高隈小学校の校庭で植物の調査。
- ＊ 地域の植物と関連した教育活動についての聞き取り。
- ＊ 水田や水辺の植物を小学校での教育に活用する可能性を模索。



校庭の植物調査
昼休みの時間は児童と一緒に観察。季節ごとの植物のデータを取得し、理科や総合的な学習で活用できる教材の開発につなげたい。



校内の人工池
高隈小学校では水生植物の栽培は行われていなかった。水辺の環境を知るためには生物を導入することも重要。

今後の展望：地域の自然と歴史を未来へつなぐために

- ＊ 肝属川流域における在来植物や溪流植生の分布の把握と、在来植物の保全と外来種対策の推進。
- ＊ 地域の自然環境や植生を活かした教材開発。小学校など地域の教育現場と連携した環境教育を展開。
- ＊ 自然と歴史の双方から地域に関わる実践を通じて、「記録し、伝え、守る」担い手としての視点を育成。



成果報告会の様子
調査にご協力いただいた地域の皆様に御礼を申し上げます。